

## 平成30年 第6回教育委員会会議

### 1 日 時

平成30年4月16日（月）

開会 16時30分

閉会 17時12分

### 2 場 所

教育委員会室

### 3 出席者

田中新太郎教育長、金田清委員、横山真紀委員、眞鍋知子委員、西川恒明委員  
新家久司委員

### 4 説明のため出席した職員

新屋長二郎教育参事、藤村一志教育次長、升屋和夫教育次長、堀田葉子教育次長、  
近岡守教育次長兼保健体育課長、岡崎裕介庶務課長、杉中達夫教職員課長、  
塩田憲司学校指導課長、篠原恵美子生涯学習課長、田村彰英文化財課長

### 5 議案件名及び採決の結果

議案第9号 平成30年度石川県教科用図書選定審議会委員の委嘱（任命）につ  
いて（原案可決）

### 6 報告案件

報告第1号 平成31年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験及び石川県公  
立学校教員（栄養教諭）採用候補者特別選考試験について

報告第2号 県立高等学校・特別支援学校教職員の勤務時間調査の集計結果(平成  
30年2月分)について

報告第3号 平成30年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校にお  
ける入学者選抜結果について

報告第4号 平成29年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績に  
ついて

### 7 審議の概要

#### ・開会宣告

田中教育長が開会を告げる。

#### ・会議の公開・非公開の決定

議案第9号は、人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する  
法律第14条第7項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

#### ・質疑要旨

以下のとおり。

報告第 1 号 平成 31 年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験及び石川県公立学校教員（栄養教諭）採用候補者特別選考試験について  
（杉中教職員課長説明）

それではお手元の資料 3 ページをご覧ください。

報告第 1 号「平成 31 年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験及び石川県公立学校教員（栄養教諭）採用候補者特別選考試験」につきまして、本日 16 日午後 3 時に公表いたしましたので、ご報告いたします。

まず、1 の「平成 31 年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験」についてであります。(1) の「試験期日等」につきましては、7 月 21 日・22 日の両日に筆記および、実技試験、8 月 4 日または 5 日に面接試験を行い、10 月 5 日に結果の発表および通知を行うこととしております。

(2) の「受験区分・教科」につきましては、今年度は「特別支援学校」の受験区分を新たに設けました。下の方ですが、「(6)主な変更点」というところをご覧ください。特別支援学校教諭につきましてはこれまで、小学校または中・高等学校と同じ受験区分で一括して採用し、その中から配置してまいりました。しかし、近年、特別支援学校の教員は、子ども一人一人の障害に応じた適切な指導が求められる他、障害の多様化や重度・重複化への対応、特別支援学校が地域の特別支援教育のセンター的機能を発揮する必要性から、これまで以上に特別支援学校の教員としての専門性が求められております。また、大学で特別支援教育を学んでいる学生からは、採用時から本県の特別支援学校教員となって専門性を生かしたいとの声があります。以上のことから、特別支援免許を所持し特別支援学校で勤務する意欲が高い者を採用し、特別支援学校に配置することにより、特別支援教育の充実を図るために「特別支援学校教諭」の受験区分を「小学校教諭」そして「中・高等学校教諭」から分離いたしまして別枠で設けることとしたということでございます。

(3) の方にお戻りください。「採用見込数」につきましては、5 月 1 日の児童生徒数の確定を踏まえて決定し、5 月中旬に県教育委員会ホームページで別途、周知を図ることとしておりますので、次回の本委員会での報告とさせていただきたいと思っております。

これは、一昨年度より、優秀な人材を確保するために、採用見込み数を記載しない実施案内をより早く作成し、大学訪問時に配布したところ、受験する大学生から好評であったことから、今年度も昨年より 1 日早く配布を開始し、受験者の要望に応じていきたいと考えております。なお、昨年度の小学校教諭、中・高等学校教諭、養護教諭の採用見込数は、合わせて 315 名となっているということでもあります。

(4) の「受験資格」につきましては、前年度同様、50 歳未満としております。

(5) の「選考区分」につきましては、記載のとおりであります。

なお、選考に当たりましては、スポーツ・文化活動やボランティア活動などの実績も考慮し、適切な人物評価となるように工夫を重ねているところでありまして、教員として豊かな教養と専門的知識を有することはもちろんであります。児童生徒に対する教育的愛情を持ち、健康でたくましく、指導力・実践力のある人材を確保していきたいと考えております。

実施案内の配布につきましては、今年度は昨年度より 1 日早く 4 月 23 日から配布す

ることとし、それに合わせまして春の大学訪問も、大学生が教育実習に参加する前に直接本県の教育や教職の魅力をアピールし、本県の受験を促すこととしております。大学訪問は就職支援協定締結大学を含めまして、これまで訪問している大学に案内し希望に応じて説明会を行う予定でありまして、より多くの学生に本県の教育や教職の魅力をアピールし、優秀な人材の確保につなげていきたいと考えております。

4月の大学訪問につきましては、24日に上越教育大学、25日に富山大学、26日金沢大学、27日には立命館大学、京都女子大学、名古屋女子大学、この6校を4月中に訪問予定としております。

また、昨年度に引き続きまして、実施案内配付開始の連絡を「いしかわ就職・定住サポートセンター（ILAC）」を通じて配信いたしまして、学生をはじめ、より多くの方々に教員採用試験の情報を提供できる体制を取りたいと考えております。

一枚おめくりください。2の「平成31年度石川県立学校教員（理療科教諭等）採用候補者選考試験」についてであります。

理療科と申しますのは、盲学校におきまして、マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を養成する課程でありまして、理療科教諭の採用試験は、今後の退職状況を見据えまして、2年ぶりに実施いたします。この選考試験については、先ほど説明いたしました教員採用候補者選考試験と同日に実施を予定しております。

3の「栄養教諭の特別選考試験」につきましては、(3)に記載してありますけれども、本県の公立学校栄養職員のうち栄養教諭免許状を持つ者の中から、選考により栄養教諭へ任用替えを行うものであります。

この試験も、教員採用候補者選考試験と同日に実施いたしまして、「採用見込数」につきましては、5人程度としております。以上でございます。

#### 【質疑】

(西川委員)

質問ではないのですが、特別支援関係でこういった枠を設けるといふふうに、1人でも2人でも特別支援教育に理解を持った先生が増えてくれるような引き金になってくれればよいなというふうに思っていますので、ぜひ成功するようにお願いします。

(田中教育長)

倍率が若干下がってきておりますので、大学訪問等説明会については積極的に、さらに力を入れてやってきたいと思っております。

就職支援協定を結んでいる大学もたくさんございます。そんなところでぜひ教員を目指すという学生がいて、人数が少なくてもぜひ本校でやってくれということであれば、要望に応じてきちんと少人数の希望者であっても説明会を開催する、そんなつもりで今おります。そういった形で少しでも優秀な学生が本県の教員を目指してくれるように、また事務局一同頑張ってお手伝いしていきたいと思っております。

(金田委員)

養護教諭の件ですけれども、臨任講師とか非常勤講師の方で頑張っておられて、決して悪いというわけではないのだけれども、やはりあまりにも正規化率が低いと親御さんの不安や、あるいは信頼というものは薄れていくのではないかなと思うものですから、

ぜひ養護教諭等の、ちょっと勉強不足で倍率が落ちているのか上がっているのか分からないのだけれども、もし採る枠の正規化率が落ちているようであれば、少し正規化をして、地域への信頼感というのかな。そういうものを、親御さんへの信頼感を醸し出していった方がいいのではないかなという思いがしますね。今年は採用が何人になるか分からないのですけれども。

(田中教育長)

受験された学生の中で、ちゃんとした力量がそろっていれば、採用はしたいと思いますが、前もご説明しましたように、今大量採用が続いているので、年齢構成の平準化ということもありまして、正規を無理に増やすというつもりはありません。ただし臨任率が全国平均並みより悪化しないように、それをきちんと予想しながら、来年度の採用枠を決めていきたいと思っていますので、そんな中でまたご指摘の点も含めて、また考慮していきたいと思います。

(金田委員)

そうですね。お願いします。

(新家委員)

今年の変更点ではないのですけれども、(5) 選考区分のところ、「V 民間企業等勤務経験を有する工業受験者を対象とした選考」、これは枠として何人ぐらいあるのですか。

(杉中教職員課長)

この選考区分「V 民間企業等勤務経験を有する工業受験者を対象とした選考」におきましては、これは平成30年度採用試験、昨年度の採用試験から初めて取り入れたものでございます。近年、工業の受験者がやはりわれわれとしても大変少なくなってきました。それと工業科教員がかなり年齢がいつておりまして、今後5年間で37人が定年退職するという状況が見えています。ですから、何とか優秀な方を、今の大学出だけでなく、例えば都会で働いていらっしゃる民間の方が故郷に帰るのに、そういう教員という枠も利用できるよということをお考えまして、民間企業等からの受験者も確保するためにこのような制度を設けたということで、何名ということは実はうたっていないのです。それで、そういう方が1人でも2人でも来ていただければ、その方を工業枠として採っていきたいというふうに考えております。

(新家委員)

マスコミ等々でご存じだと思っておりますが、全般的に要は人手不足でありますので、地元企業等々にはご配慮いただけるとありがたいなど、どういご配慮かは想像していただきたいのですけれども、ということでもあります。

(田中教育長)

できれば、今申しましたように、県内企業で働いている方がターゲットというよりも、ぜひ移住、Uターンのようなことをやっているの、県外から来てくれる人で教員の免

許を持っていて、ぜひ教壇に立ちたいという人の中でそれなりの力を持っている方がいらっしゃれば、即戦力として採用したいという思いで、そこは十分配慮、心得ております。ですから、10人採ろうとかそういう話ではなくて、枠として設けて、きちんと人物も見た上で採用していきたいということです。

ただ実は、あまり手を挙げる方が昨年度いなくて、ちょっと苦慮しています。まさに人手不足の影響を受けていまして、枠は作りしましたが、たくさんの方が目指してくれていないので、地道にこういったこともやっていきたいと思えますし、あるいはこの間金沢大学の先生が来たときにもちょっとお願いしたのですが、工学部等々で学んでいる学生にぜひ教員免許を取る勧めを、大学の方でもやっていただきたいというようなことも金大の先生方にもちょっとお願いしていましたが、今まさに正直なところ学生さんは民間へ向いていると、工学部で学んでいる皆さんは。免許は取っても志向がなかなかそっちへ向いていないというお話も聞いているのですけれど、またそんなことも大学等々いろいろご相談しながら、目に見えて退職していきますものですから、工業科の先生の確保というのは喫緊の課題で、今日明日という話ではないのですけれど、早めにとということでこういう枠を、昨年度から設けさせていただきました。

(新家委員)

正規の教員でなくても、多分いろいろなところで業界のところに協力を依頼していただければいろいろな形で協力が、そういう意味ではできるのかもしれないので、ぜひご活用ください。

報告第2号 県立高等学校・特別支援学校教職員の勤務時間調査の集計結果(平成30年2月分)について(杉中教職員課長説明)

それでは、報告第2号「2月の県立高等学校・特別支援学校教職員の勤務時間調査の集計結果」を資料5ページによりまして、報告をいたします。

「1 時間外勤務時間の平均と時間外勤務の内容」をご覧ください。まず、1行目の高等学校では、2月1カ月の時間外勤務時間は、1人当たり平均で、32.2時間で、1月と比べまして、6.6時間減っております。2月は積雪も多く、部活動のオフシーズンの時期でもありまして、8月に次いで時間外勤務時間の短い月となったということでもあります。

その内容の内訳でありますけれども、教材研究等が8.5時間、前月比0.1時間の減、校務分掌等が13.7時間、前月比0.8時間の減、部活動が9.9時間、前月比5.8時間の減となっております。部活動につきましては、4月からこれまでに中で最も短く、ピークであった5月より約20時間少なくなっているという状況であります。

また、4行目の特別支援学校では、2月1カ月の時間外勤務時間は、1人当たり平均で、21.8時間となっております、1月と比べまして1.3時間増えております。これは、2月中旬に入学選抜がありまして、その準備と選抜作業によるものと思われれます。

全日制と定時制・通信制に分けて集計した結果および全体につきましては、記載のとおりでございます。

次に、「2 時間外勤務時間の分布」をご覧ください。1行目の高等学校での1カ月の時間外勤務時間が80時間を超える教職員の割合は、右端の0.2%とその左の2.4%を加えました2.6%となっております、1月と比べまして5.4ポイントの減となっており、4月からこれまでに最も少なくなっております。

全日制と定時制・通信制に分けて集計した結果、特別支援学校については、記載のとおりです。以上で報告を終わります。

(田中教育長)

昔からニッパチといたしますけれども、学校もやはり、2月。それと今年は雪があつて、いろいろ大雪で、いろいろな活動ができなかったということもございまして、その影響もあるのかと思います。単月の状況だけなので、これで何かというわけではございません。

もう2カ月ほどしましたら、年間のデータもまた集計が出てきますので、そのときにまた前回等々でご意見のありました、少し分析も加えて、また改めて小・中学校も含めてご報告をしたいと思っております。

**【質疑】**

(横山委員)

先週校長先生方の東急ホテルの方でありました会合で、先生方とお話しする機会がありました。ちょっとやはり現場、皆さん何時ごろご出勤といたしますか、登校なされていきますかという話で、結構な先生方がとても早いお時間で6時台、7時台で、特に今4月だったからかもしれないのですけれども、やはり学校のトップの先生方が早く、意気揚々というのはすごくモチベーションを上げるにはいいと思うのですが、その時間帯ということに、時間勤務のお話につながってくると、やはりトップの先生方がやはり少し

でも勤務状況といたしますか、そういったものにもご配慮いただければいいのかなというふうに感じました。

(田中教育長)

学校は朝早いのが当たり前みたいで、校長が一番早かったり、生徒を出迎えるということもあったり、声を掛けるということもあったりして、そこを交代でやるとか、そんなことも少し進んでいるやに聞いていますけれど、先生方は朝、楽しいのだそうです。早く出てきて、朝子どものあいさつを受けるというのが。これも当然勤務時間調査では早く出てくれば勤務時間に入って計算されています。そんなことも踏まえながら、ちょっと1年間よく様子を見ながらまたいろいろな意味で追加の対策のようなものを現場の状況も見ながらまたやってきたいと思っています。

### 報告第 3 号 平成 30 年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における 入学者選抜結果について（塩田学校指導課長説明）

それでは、報告第 3 号「平成 30 年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について」報告をいたします。

資料の 6 ページをご覧ください。初めに、1 の県立金沢錦丘中学校についてですが、適性検査を平成 30 年 1 月 28 日に実施いたしました。

「選抜方法」につきましては、(2) にお示したように、小学校長から提出された調査書並びに、主に言語に関する力を見る「総合適性検査Ⅰ」、自然や社会、数理に関する力を見る「総合適性検査Ⅱ」および面接の結果を総合的に判定し、入学者の選抜を行っております。

(3) の「選抜結果」ですが、①に示しましたように、募集定員 120 人に対して、248 人が受検し、うち 120 人が合格しております。なお、受検倍率は、2.07 倍でした。

②の「郡市別内訳」については、金沢市が 76 人と最も多く、次いで白山市・野々市市が 33 人となっております。これまでと、ほぼ同様の傾向となっております。

次に、資料の 7 ページをご覧ください。2 の石川県立公立高等学校における入学者選抜結果についてご報告します。

まず学力検査等は、資料 (1) にお示した期日で実施いたしました。

(2) の選抜結果であります。①の公立高等学校全日制については、募集定員 7840 人に対し、推薦入学等 693 人、一般入学 6540 人の、合わせて 7233 人が合格しております。

②の定時制については、募集定員 480 人に対して、151 人が合格しております。

③の通信制については、募集定員 240 人に対して、32 人が合格しております。なお、定時制、通信制ともに、人数は 1 次募集までのものであります。

また、各学校別合格者数の状況につきましては、資料の 8 ページから 9 ページに全日制を、10 ページに定時制・通信制を掲載してございます。

最後に、資料の 11 ページページをご覧ください。「(4) 全日制の合格者の得点状況」を示しております。今年度の結果につきましては、①の教科別平均点にお示したように、国語、英語の 2 教科で平均点が前年度を下回りましたが、社会、数学、理科の 3 教科で平均点が上がり、5 教科合計では前年度より 6 点上がり 263 点となっております。

②にお示した 5 教科の合計の分布は、昨年度と比較して、250～399 点の分布が少し膨らむ結果となっておりますが、全体の分布状況から受験生の学力を適切に測れる検査ができたものと考えております。

中学校の校長からは、「基礎・基本的な理解を見る問題や日常生活と科学との関わりを問う問題などがバランス良く出題されている」、また「思考させる問題も論理的に順を追って考えていけば解答にたどり着くことができ、良問であった」などの声を頂いております。

このあと、31 年度の学力検査におきましても、課題を解決するために必要な活用力など、中学校における授業の中で身に付けるべき学力の方向性を示すとともに、小学校や中学校で学んだ力を的確に把握できるような出題を目指し、石川県高等学校入学者選抜が円滑かつ適切に行われるように努めてまいりたいと考えております。

以上で報告を終わります。



(田中教育長)

5教科の点数の分布は非常にいい結果が出たなど、問題も良かったのかなというふうに見ています。

【質疑】

(金田委員)

今、教育長が言われたように、いいバランスの取れた平均点だと思うのですが、ただ、数学はこういうものかな。社会が点を取れないというようなことを考えると、これは上の方の人には必要ではないのですが、問い掛け方が分かりやすい、分かりやすくということを経済教育のそういう履修を見るのだから、問い掛けをやはり気を付けていただいて、この分かりやすい問い掛け方というようなものに、問題作成時にやはり留意された方がいいのではないかなという気がするのです。特に社会は記述に力点を置いておられるというようなことを考えるならば、この国語や社会なども、そういう点での問題の作成ではなかったのかなと思うのですが、そうであればあるほど、問い掛け方を分かりやすく、ひねるということも大事なのですが、私はやはり問い掛け方を分かりやすく問うてやるということが、やはり作成時において大事なのではないかなという気がしますね。以上です。

(塩田学校指導課長)

金田委員ご指摘のとおりでございまして、今回作成した結果としまして、平均点が、数学、理科で上がった要因を探りましたところ、やはり設問においてその設問の狙い、それがしっかりと受験生に伝わるような表現を作問の中でしていこうという。

(金田委員)

ああ、そうか。

(塩田学校指導課長)

そういう結果として平均点が少し上がったというふうに捉えておりますので、今のご指摘の部分もしっかりと捉えながら、次年度に向けた入試の作成を行っていきたく思っております。ありがとうございます。

(金田委員)

はい。お願いします。

(田中教育長)

少し学級数割れとか、募集でちょっと苦戦した学校がありますので、その点については校長ともしっかり地域と連携するなり中学校と連携するなり、また少し来年度に向けてまたいろいろ県教委も支援しながら対策を打っていきたく思っております。

報告第 4 号 平成 29 年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について  
(近岡次長兼保健体育課長説明)

12 ページをご覧ください。「平成 29 年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績」について、ご報告いたします。

平成 29 年度の大会につきましては、東京都をはじめ、21 の都道府県におきまして、平成 29 年 12 月 23 日から 30 年 4 月 8 日までの期間で、各競技ごとに開催されまして、本県より 27 競技に選手 417 名が参加いたしました。

成績につきましては、団体では、卓球で遊学館高校が女子で準優勝、男子で 3 位、少林寺拳法男子で小松工業高校が 4 位に入賞する活躍が見られました。

個人においては、ウエイトリフティング男子 85kg 級、飯田高校の山下選手、同じく飯田高校の女子 75kg 級で中島選手が優勝、また男子 69kg 級で津幡高校の新谷選手が準優勝、相撲で金沢学院高校の瀬戸選手が準優勝した他、計 14 名の選手が 8 位以内に入賞しました。

過去 5 年間の入賞数の推移は記載のとおりであります。

なお、選抜高校野球大会では、本県から日本航空高校石川と星稜高校が出場しました。県勢として 7 年ぶりの出場、また 24 年ぶりとなる 2 校同時出場を果たした上に、2 校そろってベスト 8 となる北信越勢初の快挙を成し遂げたところであります。

今後、今年度は東海ブロックで開催されます夏のインターハイ、秋の福井国体、また高校野球夏の甲子園大会など、本県の高校生の活躍を期待するとともに、県の高体連をはじめとする関係団体それから関係部局との連携を一層深めまして、合理的でかつ効率的・効果的な運営による運動部活動の充実に一層努めてまいりたいと考えております。

以上であります。

(田中教育長)

本県の強みである競技が引き続き頑張ってくれたと思っております。

**【質疑】**

質疑なし。

(田中教育長)

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第9号 平成30年度石川県教科用図書選定審議会委員の委嘱（任命）について  
塩田学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・ 閉会宣言  
田中教育長が閉会を告げる。